

平成27年度(第38回)

## 校内放送指導者講座 報告

平成27年12月28日(月)、29日(火)の2日間、東京の千代田放送会館で、全国放送教育研究会連盟・NHK主催による「第38回校内放送指導者講座」が開かれました。全国から120人の先生方が参加され各講座で熱心な研修が行われました。|



### 目的

高等学校における校内放送活動の意義と役割を確かめ、その指導についての諸課題を究明するとともに、具体的な指導の充実を図る。

### 対象

- (1) 高等学校放送部(委員会・同好会)の指導にあたる者
- (2) 各都道府県コンテスト担当者および放送コンテストの審査にあたる者

### 講座一覧

#### 講座1. 顧問交流

#### 講座2. 実践発表:なぜ兵庫は強いのか

講師 兵庫県立伊丹北高等学校 村川 力三

#### 講座3. アナウンス・朗読 審査講習

講師 NHK放送研修センター・日本語センター  
エグゼクティブ・アナウンサー 金野 正人

#### 講座4. 番組技術と模擬審査

講師 NHK制作局  
青少年・教育番組部 チーフ・プロデューサー  
早乙女裕子

## 講座ごとの内容（概要）

### 講座 1. 顧問交流

参加の先生方が、9人から10人の13班に分かれ、日頃の指導や疑問と、具体的な解決策について意見交換を行いました。

#### 【日常の活動】

入学時にチームを作って、全員に30秒CMを作らせる

1年生は全員アナウンスさせる 技術系希望者もNコン予選に出す

運動部の撮影等を行っている



#### ◇お昼の放送

「毎日、校内放送をしている学校は強い」と言われている

熱心な学校は昼の放送にしても「取材したニュース」を毎日アナウンスしている

呼び出しだけではつまらない 学校が元気になる コンテストのネタになる

部活動の結果報告

売店のおすすめ品紹介（スイーツなど）

先生の紹介

金曜は「～特集」で、音楽の特集をしている（リクエストも募集している）

校歌を流す（朝の放送） 諸連絡も行う 応援歌 7月 栄光は君に輝く

総体の時期→元気になる曲 カゼの時期→換気の呼びかけ

松岡修造の日めくり 相田みつを

1年生に校内の場所を説明（好評だった）

DJ、曲の紹介がメイン

ニュース作りまですれば、アナ素材収集力につながりそう

取材して1枚原稿×2本 曲 1曲 or 2曲

どうやって聞いてもらう環境を作るか

生徒の手紙コメントに返事をする形にしたら聞いてくれるようになった

リクエストボックスに入れてもらう

個人的に話しているようにすれば聞いてくれるのでは（週1回）

#### ◇部員確保のためにやっていること

日頃の活動を思い切りやる

入学式の翌日からお昼の放送を4月中毎日

入学式も3カメラ使用 中継して活動を見せる

新入生歓迎会での司会 学校説明会・学校公開のときの司会

インスタント指導ブースを作り、やっていることをアピール

教員による勧誘

アイデアをもっていたり、ドラマを作りたいがっていたり、声のいい生徒を1本づり  
機械に興味のある男子生徒に、パソコンやケーブル等を見せる  
運動部が続かなかった生徒の居場所づくり（5月頃がねらい目）

### 【アナウンス】

#### ◇テーマ探し アイデアの出させ方

新聞の切り抜き 部室の壁に貼る 新聞の要約

取材のない原稿は駄目 自分が探したもの 出かけてみる 現場に行ってみる  
学校を歩いて素材を探す

例えば、「ハンド部に焦点を当ててみよう」というようなことをしている

生徒のおしゃべりの中でネタを引き出してみる

生徒にとっては当たり前でも面白いことがある

学年、クラスが異なるとつながりがない→ネタになる

長くいると当たり前のことが、外から見るとニュースになったりする

1年生が感じている「この学校の変なところ」を聞く

転勤してきた先生に感じていることきく

聞いて「へー」と思えるような話題 他の人が知らないことを探す

みんなが知っているような情報・身内ネタはNG

「知らない情報」を伝える そのアナウンスを聞いて、聞く人に発見があるかが大事  
聞いた人が、行きたい、見たい、聞きたいと思えるように

ネタは口コミ いろんな人を呼んで「お茶会」を開く

ネタが決まったら

20字くらいの短文で作らせてみる（大きな話から具体的な話へ）

とりあえず書かせる（20回くらい書き直し）何を書きたいのか絞っていく

繰り返すとだんだん上手くなる

#### ◇原稿の書き方

「みなさん～」という始め方は使わない

話す相手を決めて話しかけるようにする 相手のために伝える

伝える相手が具体的になることで原稿づくりの意識が変わる



全国のアナウンスを文字に起こして自分たちの原稿と比較させる

60人集のCDの書き起こし

良いと思う原稿を真似ることからスタート N杯の入賞の原稿をマネさせている

NHKのニュースの出だしを参考にする

セリフは本当に必要かどうか、しっかり選んだ方がよい

最初の一文の工夫 続きに興味が湧くような

センテンスは短く 一文の中の情報は基本一つ

大事な情報を選んで立てる

メ(しめ)の一文、客観的情報伝達で終わるようにしている

聞く人に疑問を与えない原稿 分かりやすい文章 小学生にもわかるような原稿を

原稿を見ずに耳だけで聞いてみる

聞いている人に絵が思い浮かぶように

5W1H 時系列も大事

まずは書いてみる→「型」にはめるとアナウンス原稿に

起承転結で400字の骨子を

起承転結が難しいので、現在・過去・未来で書かせている

たっぷり取材したものを取捨することが大事 情報を付箋に書いて整理

同音異義語、難解な語句を避ける 体言止めも避ける

表現は具体的に たくさん→100人の すてきな曲→×××という曲

#### ◇読みの練習

##### 日頃の練習

読書本(長さはNコンの原稿程度、国語の教科書でもいい)を決めて、部員相互で審査

内容を伝えようとしているかが大事 何を伝えたいのか、内容をはっきりさせる

自分(本人)の読みを聞かせて、どういう状態にあるかわからせる

発声で声を出すと、よい声が出ると勘違いする場合がある

プロのニュースの読みを生徒に聞かせる

NHK地方ニュースを録画して、原稿に起こして練習

ロングトーン&早口言葉

腹式呼吸を意識

発声は外に向かって

滑舌の練習が大切

アクセント辞典でアクセント確認

大会時にビデオを撮る

全国大会のCDや結果とつき合わせて、良い読みの基準を知る

良いものを聞く(上位者の読み NHKニュース 朗読CD)

決勝の原稿を読ませてみる(間のとり方の違いがわかる)

お昼の放送で力を伸ばす 短時間でもしゃべれるようになる 聴き手を意識するし  
アナ原稿毎日書かせる 前日に200字で 数をこなすことで書けるように

アクセント辞典の付録を読ませた

イントネーションの悪い子はアクセントを直すとよい

方言は？

アナウンスするからには標準語を話させるようにさせたい

お互いで聞き合いをする 自分で聞いて気付くようにさせる

「無声化」が関西地区のネック

### 【取材】

取材のアポは最初は顧問 2回目は生徒

原稿や番組のためでなく、相手に興味を持ってインタビュー

取材対象に生徒はなかなか切り込めないので顧問が付く（関与の度合いがジレンマ）

取材前に質問などを書き出していく メモは箇条書き

機転に応じることが苦手な生徒が多いので準備がとても大事

最初から録音機器を回しっぱなしにしている（何が使えるのかわからない）

機材はサブも回しておく

カメラ起動ランプが付かないようにしておく（取材対象が構えてしまうので）

「ありがとうございました」の後に本音が出やすい 機材は最後まで切らない

### 【朗読】

#### ◇原稿の選び方

登場人物が3人を越えるとわかりにくくなる

聞いている人間に情景を思い浮かばせる 絵に描いてみる（伝わりやすいかの判断）

声を変えずに、男女、老若を使い分ける

朗読は「間」が勝負

朗読に触れさせる→CDを聞かせる 黙読100回

なぜココか どこを聞かせたいか 間の取り方 生徒に説明させる

感情表現の許容は手探りで難しい

強弱、緩急、間、どうやって情景を伝えるか

地の文には感情を込めない いかに客観的に読めるかが大事

地の文とセリフとは分けて練習

地の文を読むとき、横で演技をしたり動きをつけると間合いなど客観的に捉えられる

NHKなどの朗読ドラマを聞く

### 【ドキュメント】

#### ◇ネタの見つけ方

「特別なこと」でなくても、何か起こったらまずはカメラをまわす→ネタになるかも

話題よりも人間ドラマが好き 一人の人間を追いかける 応援団長を追いかける  
何を通して何を描くか 早くターゲット（1人）を絞る  
生徒はネタとして「イベント」を追いかけて、「個人」を選ぼうとしない傾向を感じる  
学校の中の変化、各部の活動などにアンテナを張る  
校内の生徒へ校外の情報  
いじめがなくて人が死なない番組を

ドキュメントは取材力（どれだけ取材をやり切るか）  
たくさん情報をどう削るか？  
見てもらって興味を持つか？（例 親に聞いてみる）  
テレビ作品の音を消して絵だけで伝わるか、もしくは音だけで伝わるか、確認する  
気になることを付箋（3色）に書き出し、貼り付けていく  
メッセージ性があるか  
タイムリーな話題か（ネタかぶりに注意）  
様々な視点からのアプローチができるか 深く掘り下げることができるか  
自校だからこそできる話題か（生徒が自分の足で歩ける範囲）

ドキュメントにも演出は必要

「何となく」では撮らせず、構成などを仕上げてから必要な画を撮る

「何を撮りたい」かがわかっていないと、当たり前のことしか聞いてこない

著作権の許諾

商標 広告関係が映らないようにする

店のロゴや看板が入らないように撮影

音楽（フリー音源を使うのがよい） 洋楽は著作権が大変

撮影中の背景音 外部から勝手に入ってしまう音もダメ

取材中は消してもらおう

写真（建物や主催者）駅の写真など書面が必要（口約束ではダメだった）

新聞記事の掲載料が値上げ

高野連の許可が必要なこともあった

類似したものへの注意

## 【ドラマ】

◇シナリオ作り

「ドラマは戦いだ」対立軸を生徒に考えさせる

伏線をどう作るか

ラジオでも映像が浮かぶような音の作り方

エピソードから考える

あんパン食べてたら、トンビに奪われた

学校の池が地下で海とつながっている トランプが得意な子がいる 家が喫茶店

ゴミがたくさん捨てられている川→魚や鳥の目線から描く

他校のパロディ版を作ってみる

Nコンの上位作品を研究 絵コンテを起こす

アニメの画コンテ集を与えた所、カメラの置き方などを考えるようになった

アングルなど、やってみないと気付けないことがある

コンテストには出せないにしてもいろいろ勉強になる

ドラマも取材や調査をすることで作品のリアリティが増す

ドラマを作るために探偵に取材 小道具などにリアリティ

陸上部を扱ったドラマ 陸上部に「あんなシューズは履かない」と指摘された  
頭の中で考えていても気づかない 実際の番組を見て考えさせる

ドラマの音声はその場で録った方が自然

アフレコでも空気音、背景の音を入れる 距離感も考えて調整

### 【研修会】

生徒の横のつながりができるとよい

名刺を作らせている アドレスが書いてあるので交流できる

生徒だけで発表する企画 そこから地域の放送活動が活発

強いところの顧問の先生にもあいさつに行かせている

近所の学校と合同練習をする→自分の生徒しか見ていないとマヒしてしまう

県を超えて練習に行ったり、地域で集まって学校間交流（練習）

校内コンテストの実施

県の講習会

顧問がまず学びに行って、それを生徒に

若手の先生はベテランの先生について教えてもらっている

外部講座を受講（NHK日本語講座）

NHKのテキストを印刷して生徒に読ませる

### 【顧問がどこまで関わるか】

アイデアは生徒が出す（ヒントは顧問）

誘導はするが、生徒達が作った感じを出す 達成感を作る

生徒とともに過ごす時間を増やす

放送設備の不足 周囲へのアピール 学校行事を一生懸命やる 他の教員を巻き込む

## 講座2. 実践発表：なぜ兵庫は強いのか

講師 兵庫県立伊丹北高等学校

村川 力三

・2015年度都道府県別学校数・参加数・参加率のデータから

兵庫県は学校数が多く（第6位）、Nコンの参加率が高い（第5位）ので、Nコンの参加学校数が多い（第2位）。ということは参加率が低い県は、発掘して参加校数を増やすことができるという可能性がある。

- ・兵庫県の取り組み（年間）（Nコン、高文連放送コンテスト以外で）

放送部夏祭り（夏季リーダー研修会）8月

各地区で1日、個人部門・番組部門の講習

全県顧問会議 9月

冬季リーダー研修会（個人部門宿泊研修）12月末

選考生徒、1泊2日

兵庫県高校放送フェスティバル 1月下旬～2月上旬

各部門で1日 次年度のNコンに向けての個人部門のミニコンテスト

**各イベントの後での、顧問の懇親会はとても重要！！**

- ・兵庫県の顧問のつながり

放送に熱心な1人の顧問から、つながりで輪が広がった。協力とライバル意識をもとにした、顧問と顧問のつながりが密な点が、現在の兵庫を作った。

### 講座3. アナウンス・朗読 審査講習

講師

NHK放送研修センター・日本語センター  
エグゼクティブ・アナウンサー 金野 正人

講座3では、62大会の決勝でアナウンス・朗読部門の審査をご担当いただいたNHK放送研修センター・日本語センター エグゼクティブ・アナウンサー 金野正人先生を講師にお迎えし、模擬審査をしながら審査のポイントや原稿の書き方、抽出の仕方等についての具体的なご指導をいただきました。

まず金野先生にご挨拶をいただいた後、審査基準を確認し、早速アナウンスの模擬審査が始まりました。62会の準決勝に残った3年生の中から選んだ4人のアナウンスをCDで流し、本番さながらの審査を行いました。そのあと、審査用紙を回収し、集計を行っている間、6人グループで討議をしていただきました。実際の審査では実現できない審査員相互の意見交換が行われました。ベテランの先生方の豊富な経験に裏打ちされたお話と、審査初体験の先生方からの素朴で新鮮な視点が混ざり合う大変貴重な話し合いが行われました。金野先生も会場をまわってこの話し合いの様子をご覧になり、そのお声に耳を傾けてくださいました。

結果発表の前に、グループ討議のお声を拾う時間を設け、生徒1から4について、それぞれ発表していただきました。

そして審査結果の発表をし、会場の審査点と当日のコンテスト点、そして金野先生の審査点を順に発表しました。審査の難しさを痛感する結果に会場がどよめきましたが、それを受けて、金野先生に貴重なアドバイスをいただきました。

朗読もこの流れで行いました。（作品は、瀬尾まいこ作 「図書館の神様」に統一）金野先生は、実際の原稿を、時にご自身で音声化しながら、ご指導くださいました。以下、金野先生のお話しくださった内容をかいつまんで挙げてみます。

#### ① アナウンス

- ・アナウンス原稿の書き方で、伝える順序に気を付けてほしい。聞いている人がわかりやすく事実を



並べていくことが大切。順番が入り乱れると同じ内容でもわかりにくくなる。

- ・自分が自然に話せる原稿、それが一番。アナウンス原稿は自分で言葉を選ぶことができるので、より自然に普通に話せる原稿を作ることが肝要。
- ・最後の文章の作り方に工夫を。紋切型にならないように。
- ・人物を掘り下げるエピソードは、前半と後半の食い違いがないように、吟味しよう。
- ・意味のくくりがあいまいだと正確に伝わらない。切れ目をどこにするかが重要。
- ・結局は聞き手が分かったかどうか、伝わったかどうかにかかっている。そのための自然なイントネーションや間、緩急のバランスを考えてほしい。

## ② 朗読

- ・朗読とは作者の思いをくみ取って代弁するものである。
- ・作品全体はわからなくても、抽出部分の世界がわかる場所を抽出する。伝えやすく印象的な場面であるかどうかの検証を忘れずに。
- ・会話文と地の文のバランスが大事。偏らない所を選ぼう。双方が相まって作品世界を作る。
- ・句読点に惑わされず、あくまで意味通りの切り方で読む。
- ・登場人物の差異化を意識する。キャラクターがまじりあってしまうと聞き手が混乱する。
- ・セリフ部分はその前後の表現に注意し、普段の会話を意識して不自然にならないよう表現する。
- ・朗読は間を活かすことができるか、それがとても大切。中途半端な間では生きない。
- ・文章の構造を意識した読みを心掛ける。

審査の観点を学ぶとともに、その難しさも改めて感じる時間になりましたが、ご参加の先生方の熱意と、金野先生の示唆に富んだお話が行き交う165分となりました。

## 講座4. 番組技術と模擬審査

講師 NHK制作局

青少年・教育番組部 チーフ・プロデューサー  
早乙女裕子

午前中は、ドキュメント部門を視聴し、模擬審査を実施しました。

扱った作品は準々決勝に進んだテレビドキュメント部門・ラジオドキュメント部門それぞれ4作品です。

ラジオドキュメント部門

作品1)「長崎への修学旅行で現地高校の平和学習部との交流を描いた作品」

作品2)「瓊浦中同窓会との合同慰霊祭を通じ、被爆70年とこれからの取組を問う作品」

作品3)「定時制高校の聴講生の学習に対しての姿勢を通じて、学ぶことの原点を問い直す作品」

作品4)「ハンセン病における誤解やその歴史を通じ、情報を確認する大切さを訴える作品」

テレビドキュメント部門

作品1)「鬱から立ち直った津軽三味線奏者の半生を取材し、生きることの意味を訴える作品」

作品2)「阪神淡路大震災で閉鎖に追い込まれた戦没慰霊施設の復興を通じ、平和の意味を問う作品」

作品3)「退職を機に養育里親に取り組む高校教師を取材し、人の為に尽くす事の意味を問う作品」

作品4)「壁ドンへのあこがれ、分析、法律などを取材し、壁のもつ人の心理への影響を伝える作品」

午後は、模擬審査の結果発表と早乙女プロデューサーによる講評、質疑応答及び早乙女プロデューサー制作のテレビドキュメント「人生デザインU-29」の視聴を行いました。早乙女プロデューサーからは以下のようなお話がありました。

## 1. ドキュメンタリー番組の作り方について

### (1) ドキュメンタリーの定義

- ・その人の意思で動くのがドキュメンタリー
- ・やらせなのかの判断基準は、本人(取材対象)にモチベーションがあるかどうか
- ・取材対象の思いがとれていれば、ドキュメンタリーであるとする

### (2) どんな作品が良い作品か。

- ・おもしろいもの(ただし、主観。人によって違う)
- ・「わかること」が人をひきつけるのでは?
  - ①理解・・・知らなかったことがわかる
  - ②共感・・・相手の気持ちがわかる

### (3) 採点基準(4つの観点)

- ①テーマ・トピックス
- ②取材力・構成力
- ③演出力・表現力
- ④結論・メッセージ(一番大切)

<各観点における留意点>

#### ①テーマ・トピックスについて

- ・情報の新しさ、スクープ性
- ・時代性
- ・社会的重要度
- ・高校生らしい興味(独自性)

#### ②取材力・構成力

- ・テーマが明確か(一つの吐息で統一されているかが大事)
- ・取材が的確か
- ・起承転結・・・結論へ向かってまっすぐかどうか
- ・感動
- ・自分勝手なロジックに陥っていないか

e.g.)街頭インタビュー

- ・3人しか撮らないで、全員賛成でした、みたいなものは、もちろん駄目
- ・街頭インタビューは、アンケートとかを基に、丁寧に扱うこと

#### ③演出力・表現力

- ・手法の新しさ、奇抜さ、オリジナリティ
- ・リアリティ、説得力

#### ④結論・メッセージ

- ・実際に取材したからこそ見えた真実

## 2. 模擬審査について 構成力を重視しました。

### ①ラジオドキュメント

作品1 高校生の素朴な疑問がよい

作品2 自分の内なる興味で取材をしているのが良い

作品3 インタビューのおもしろさ、印象に残るインタビュー、高校生活の中の題材

作品4 ロジックがよれてる。良いインタビューがとれているのでそこから発想を深めるとよい。

### ②テレビドキュメント

作品1 素材がいい。素材を選ぶ観点は、(1)共感を得られるか、(2)時代を象徴するか。

できるだけ多くの人何かを得られるものを選ぶ。

作品2 その人の思いはどこにあるのかでインタビューの内容を深めては？例えば、生徒会長を主人公にして、手紙を読むことになったので、調べてみたら、こういうことがわかった、という構成ではどうか？

作品3 先生が退職後しようとしていること、何故、やめて何をやろうとしているかを伝える。制作意図に人のために何かをすることの大切さを伝えたいとあるが、飛躍しすぎている。

作品4 日常の入り口から高尚なものへ展開しているのがすごい。構成もよい。演出もよい。

TVらしさがあった。人の感情が出ているものは視聴者をひきつける。

## 3. 質疑応答

Q1 現場の音声についてどう思うか教えてください。

A1 現場音がなければいけないとは思わない。取れてる方がリアリティがあるだろうけれど、現場のやり取りを必ず入れる必要はない。こだわると、時間制限がある中では、伝えたいことが伝えられなくなる。とれてるのはベストだと思いますが。

Q2 テレビについて、マイクが画面に入ってもいいのか？

A2 気にしません。リアリティがそれで崩れるなら×です。リアリティは大切に。嘘くさくないこと、やらせととられるようなことはないか、が大切です。

Q3 どの観点を大切に思うのか、観点の優先順位を教えてください。

A3 面白いかどうか。面白さは人それぞれでOKだと思う。大切なのは、作り手としてみないこと。ミクロ（取材者の立場）とマクロの見方（たとえば、客観的に取材者にアンチな質問をするなど）を持つこと。

Q4 ラジオとテレビで観点の違いは？観点が同じであるなら、一緒に審査してもよいのでは？

A4 ラジオは、顔出しNGの人（たとえば、性同一性障害の人など）でも出てくれる。テレビでは、とれないものもある。作る時の条件が違うので、観点は違うかも。テレビだからできたことに加点、ラジオだからできたことに加点すればよいのではないか。

Q5 素材について。チョークを食べるという作品があったが、倫理的にどうか？

A5 チョークを食べることを使って、何か伝えたいことがあるのなら、アリかもしれません。アンパンマンも衝撃的だけど、それ以上のメッセージがあるなら許容される。

Q 6 NHK制作局の新人の育成方法を教えてください。

A 6 現在、NHK内の Hot topic です。基本的に、地域放送局での 5 分レポートからスタートします。企画に応募して、企画が通れば、東京で作ることもできます。適切な情報取材して、それをまとめることが基礎力。GWまで研修センターで概要研修。その後は、On the job トレーニングで、先輩のロケについていく。マニュアルはありません。自分なりのロケのやり方を見つけていく。Director と CP が教える。On the job で、撮ってきたものを見て、足りないから撮りに行ってこい、等と言って、教える。

Q 7 ドキュメンタリーで、ナレーションとインタビューのバランスは？ナレでまとめすぎている場合もあり、インタを入れたほうがいいのか、と思うことがある。一方で、インタだけでは並べただけと思う。

A 7 言葉で語るシーンでなければセリフはいらない。例えば、職人。見せたいのは「技」であり、「セリフ」じゃない。過去のシーンは写真かインタビューしかないので、セリフを使う、と、使い分ける。

### 3. 「人生デザイン U-29」

被災地（宮城県気仙沼市唐桑地区）を応援したい！とやってきた若者と、地元の人たちの思いを取材した番組。被災地に 4 年間も続けているボランティアって、何故長く頑張り続けたのかなあ、という、素朴な疑問からスタートしている。番組は見られることが第一歩なので、見たくなる、見続けたくなる番組作りをする。まずは、作品全体の起承転結のバランスに注意すること。「起」はコンパクトにまとめ、「承」と「転」に時間を割くとよい。